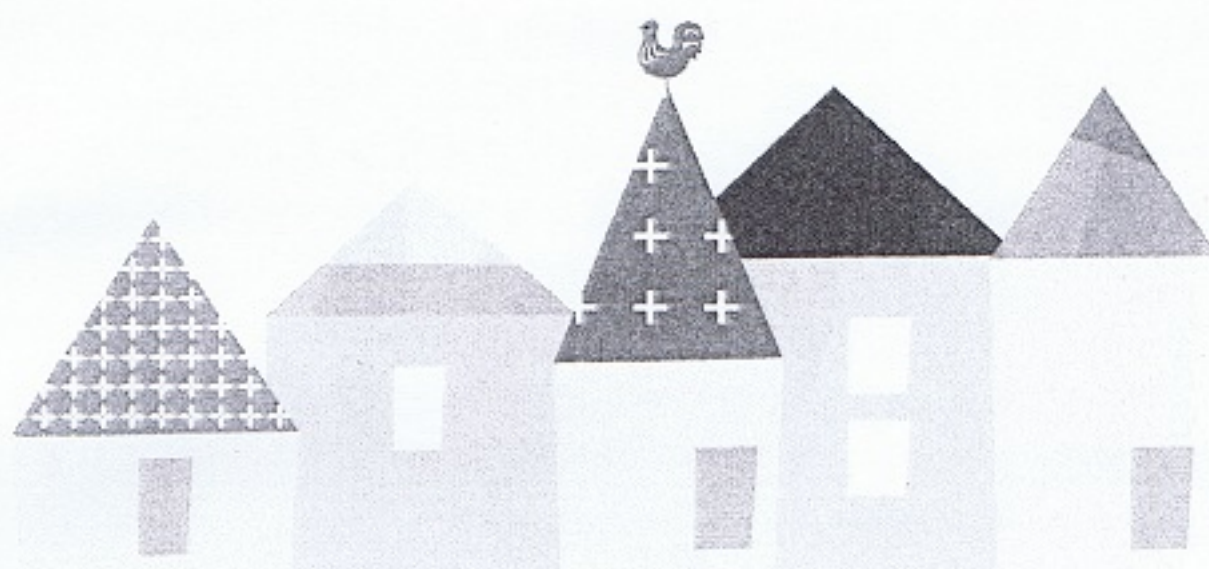


NPO法人

おかやま入居支援センターだより

創刊号



設立後1年を迎えて・・・・・・・・

【おかやま入居支援センター】は、住居の確保が困難な方の入居を支援することを目的として、法律・医療・福祉・不動産仲介の専門家が中心となって、平成20年11月に設立され、翌21年3月にNPO法人になりました。

平成21年4月から、高齢者・障がい者の入居支援活動を開始し、現在までの約1年間で37件の申込があり、22件の支援を行い、20の方が入居されました。

NPOの理事会で「入居支援決定」がなされると、担当理事がケース会議に出席するなどして、支援ネットワークの形成を支援します。そして、入居の際、保証人が見つからない場合には、財産管理の仕組みを整えた上、NPOの理事会で「保証支援決定」をして、NPOが賃貸保証人になっています。

岡山県から「精神障害者入居支援事業」を受託して、アルバイトの事務局員2名を採用することができ、NPOの組織も徐々に強化されてきました。

できるだけ多くの方にNPOに参加していただきたいと願っております。

入居支援活動の輪を広げ、誰もが自由に安心して居住できる地域社会づくりを目指します。ご理解・ご協力・ご参加をお願いいたします。

平成22年3月

特定非営利活動法人 おかやま入居支援センター
理事長 井上 雅雄

申込内訳(平成21年3月～平成22年2月)

申込者等障がい別内訳

申込者数 37件
 支援決定数 22件
 入居済 20件

※申込者には一つの障がいだけでなく、複数の障がいがある方もおり、それぞれカウントしているために実績数と内訳数が異なっております。

申込者障がい別内訳

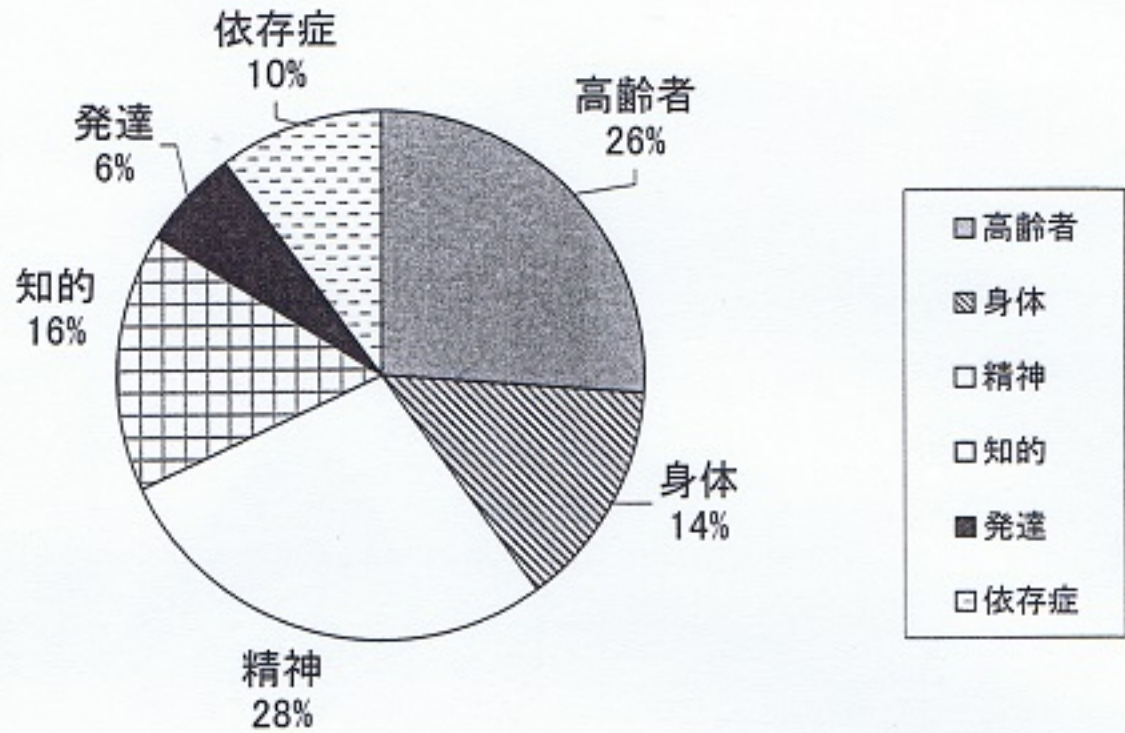


表1 申込者障がい別内訳

	人数
高齢者	13
身体	7
精神	14
知的	8
発達	3
依存症	5
合計	50

表2 理事会審査状況

	支援決定	保留	不受理
高齢者	5	3	2
身体	3	2	2
精神	11	2	0
知的	5	1	2
発達	2	1	0
依存症	3	1	0
合計	29	10	6

表3 保留者の内訳

	保留状態	取下げ		
		死亡	家族との同居	左記以外の理由での取下げ
高齢者	2	0	0	1
身体	2	0	0	0
精神	1	1	0	0
知的	0	0	1	0
発達	0	0	1	0
依存症	0	0	0	1
合計	5	1	2	2

※表1では、3人での申込を3とカウントしているが、表2では支援者が1人だったため1とカウントしています。

理事会審査状況

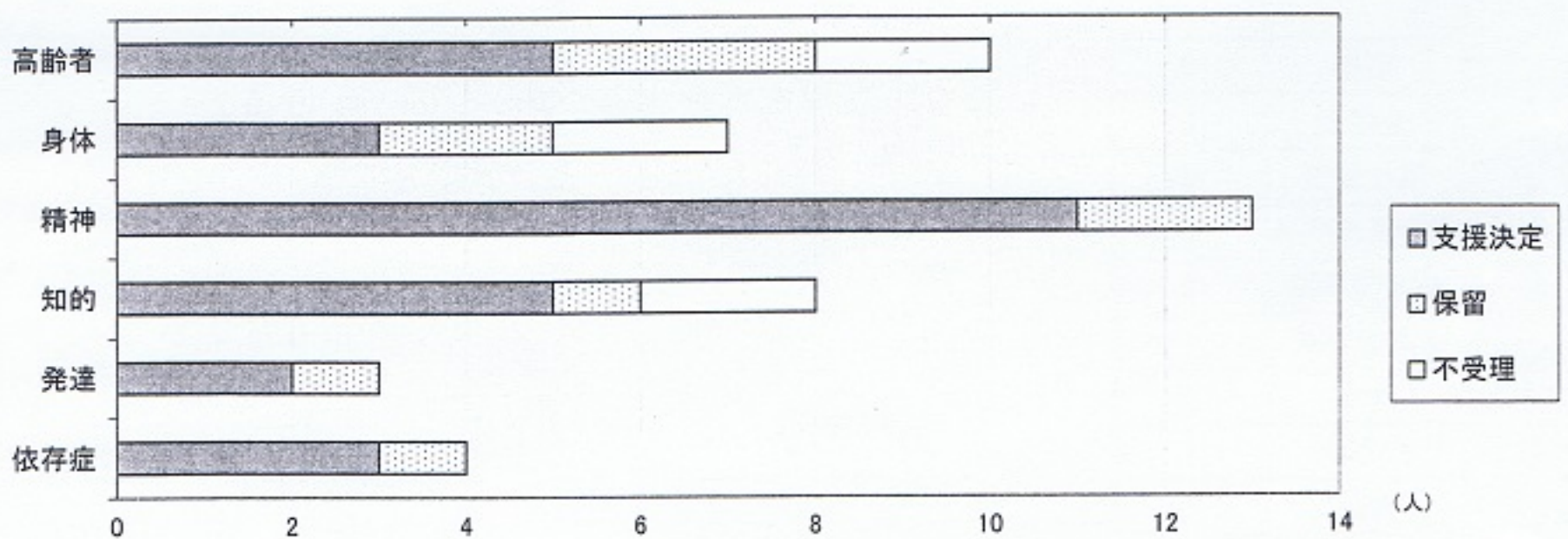


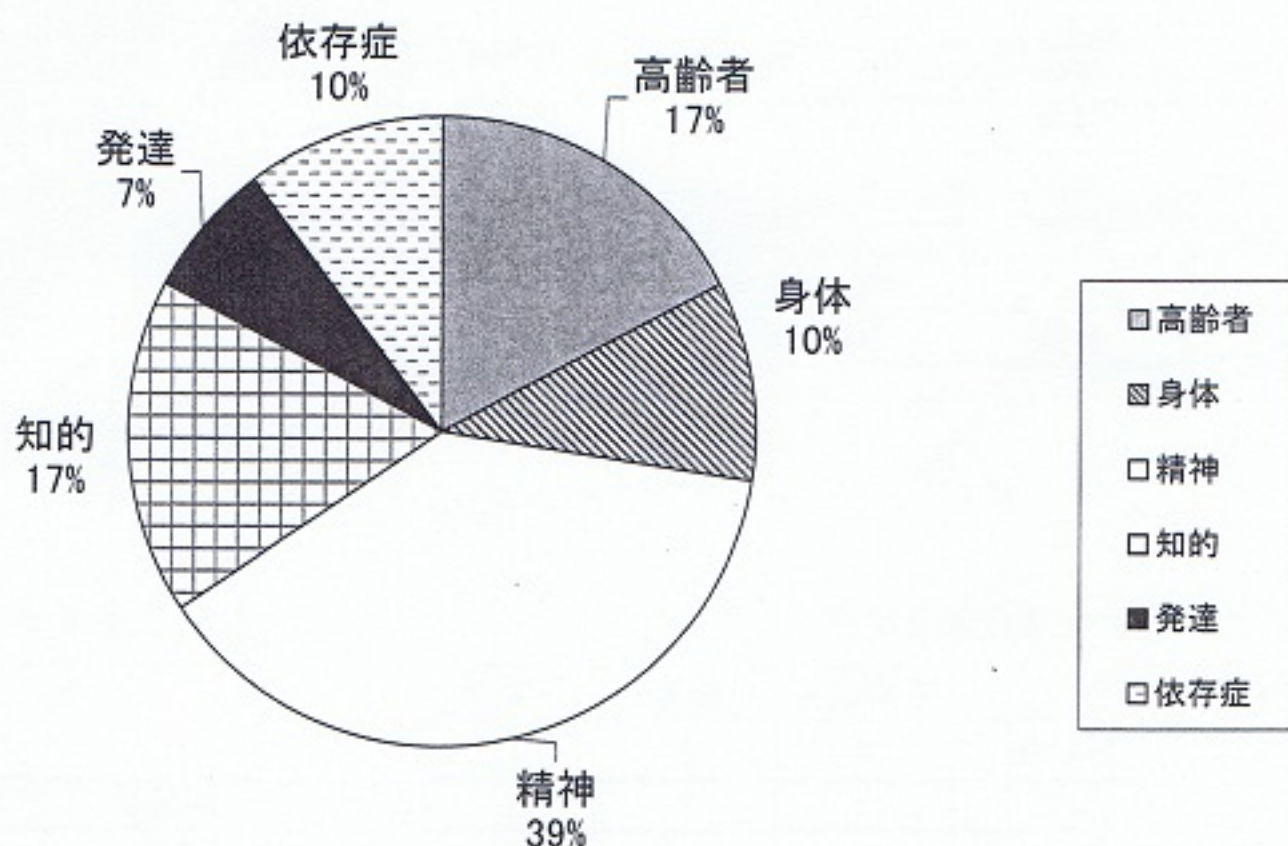
表4 保証支援の内訳

	支援決定	入居済	緊急連絡先	保証人
高齢者	5	4	3	1
身体	3	2	2	0
精神	11	10	1	9
知的	5	5	1	4
発達	2	2	0	2
依存症	3	2	0	2
合計	29	25	7	18

※緊急連絡先は、民間保証会社の利用ができる場合、当法人が緊急連絡先になることで入居できた例

※保証人は、民間保証会社の利用ができない場合、当法人が保証人になることで入居できた例

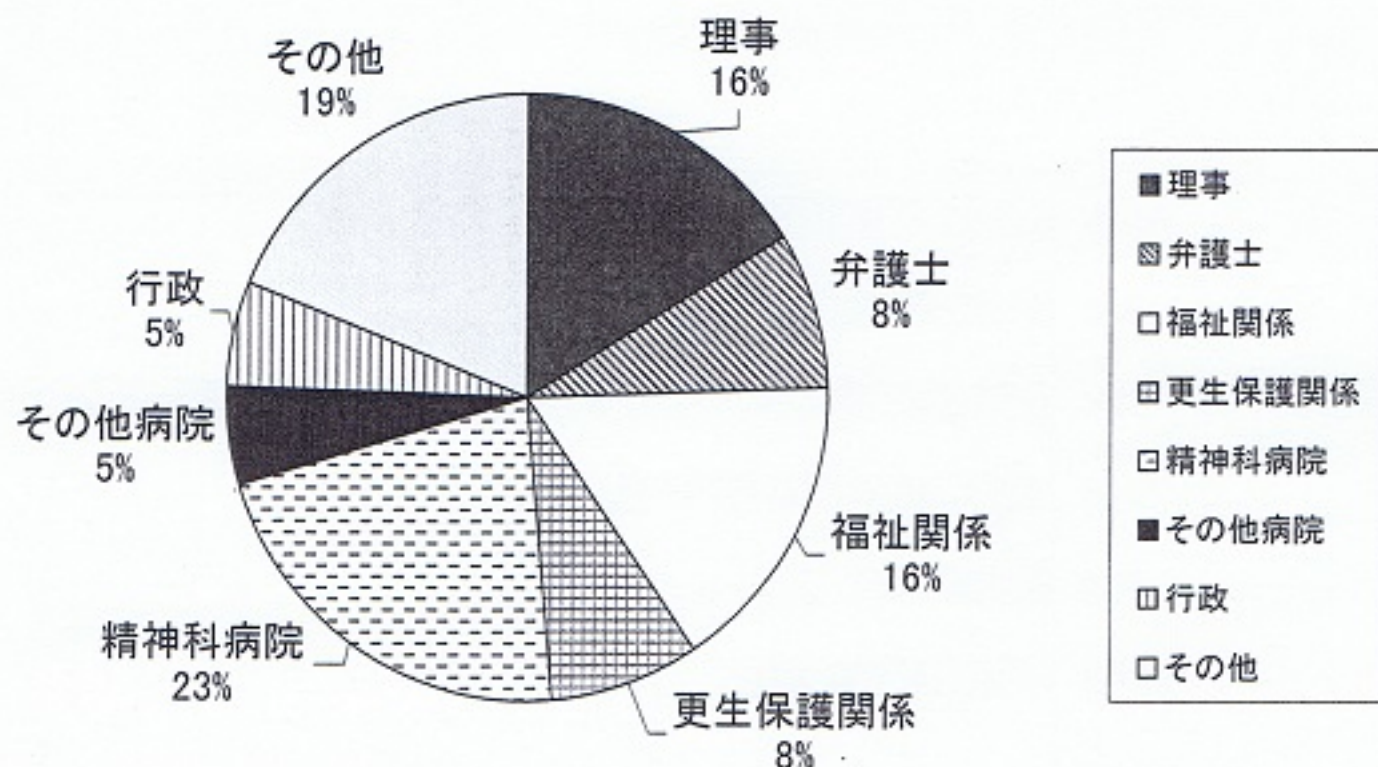
支援決定者の内訳



申込同行者の内訳

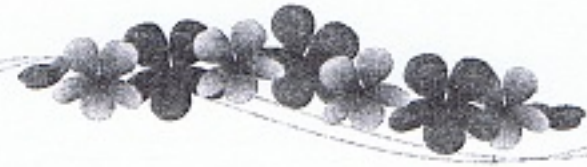
表5 申込同行者の内訳

	人数
理事	6
弁護士	3
福祉関係	6
更生保護関係	3
精神科病院	8
その他病院	2
行政	2
その他	7
合計	37



新聞記事に紹介されました！！

平成22年1月12日「山陽新聞」掲載



精神障害者の自立促進、住居確保

「社会的入院」 解消へ活発化

地域に受け皿がなく退院できない精神障害者の「社会的入院」解消を目指し、県内で官民の動きが活発化している。精神障害への偏見が根強い中、県は社会での自立を促す施策を拡充。NPO法人(特定非営利活動法人)など民間の力も加わり、住居の確保に取り組んでいる。(秋山昌三)

「外に出られたとき、どんなにうれしかったか。病院には二度と戻りたくない」

かつて入院を強いられた50代男性岡山市は、計9年間に及んだ入院生活を振り返った。

小学校教員だった30代でうつ病に。退院して養鶏場や宅配業などで働いたものの、病気のため意欲が続き再び病院へ戻った。

家族にも「退院はあきらめて」と言われ、社会復帰を断念しかけたが、大学の恩師や友人から励まされ奮起。現在は市内の作業所で働く傍ら、精神障害者の地域移行などを訴える活動をする「県精神障がい者団体連合会」の運営にも携わる。「やりがいのある仕事をして趣味も楽しむ。そんな人間として基本的な生活が病院では望めない」と訴えている。

ハンセン病同様

「ハンセン病患者の隔離と同様の人権侵害」(福祉関係者)ともいわれる精神障害者の社会的入院。厚生労働省の試算では、入院患者約7万人が該当し、県内でも長期入院している人のうち退院可能な人が「千人以上いる」(県健

県内 官民で支援取り組み

康対策課)とされる。

精神障害者の多くが地域に戻れない要因は、家族が亡くなるなどして居場所を失ったり、偏見から住居が見つからないためだ。

県内のある不動産業者は「精神障害に対するマイナスイメージがぬぐえない。近くに入居するのを嫌がる住人は多く、(精神障害者の入居を)断っている」と明かす。

「精神障害は実態があまり周知されておらず、偏見が解消されないままとなっている」。吉備国際大の芝明義教授(精神保健福祉)

はこう指摘する。

5年で8割退院

障害者自立支援法の施行(2006年)などで地域生活への移行方針が打ち出される中、県は07年に障害福祉計画を策定。社会的入院とみられる患者1300人のうち、5年間で8割を退院させる目標などを掲げた。第2期計画として09年3月、入院中の精神障害者にアドバイスするなど退院の橋渡し役となる「地域移行推進員」を設置するなど、新たな支援策を盛り込んだ。

同11月には、精神障害者の住居確保をテーマにした研修会を岡山市で開催。医療や福祉のほか、不

動産や家主など住宅関係者を初めて交え、精神障害者を積極的に受け入れている不動産業者や先進地の取り組みを紹介した。

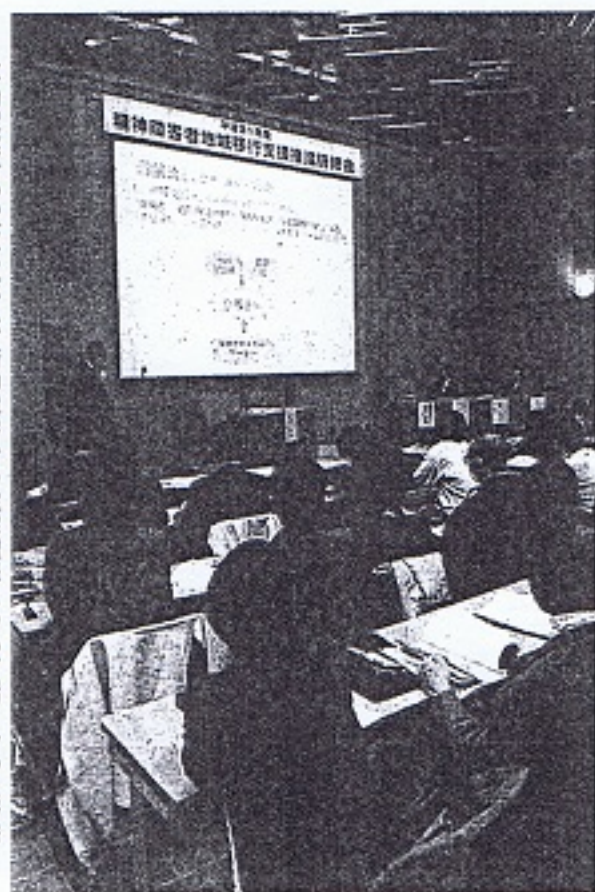
県健康対策課の平田敦子主任は「退院の実現には入院施設から地域での受け入れ先まで一貫した連携が欠かせない。同様の取り組みを市町村単位まで広げたい」と言う。

自ら保証人にも

民間のバックアップ体制も整ってきた。保証人がいないなどの理由でアパートや施設への入居が難しい精神障害者、知的障害者、高齢者を支えようと、県内の弁護士や医師らが「おかやま入居支援センター」を設立。09年3月にNPO法人の認証を得て活動を本格化した。

アパートなどへの入居希望者について病院や施設職員とケース会議を開き、支援体制を構築。会員の物件仲介業者を通じて入居先を探す。民間の保証会社を紹介したり、自らが保証人になる。

精神障害者については同12月現在で9人をあっせん。「資金の確保など課題はあるが、支援の拡大に向け、新規会員の獲得などで組織力を高めていく」と井上雅雄理事長は力を込める。



不動産業者や家主を交え、精神障害者の住居確保について話し合った研修会。2009年11月、岡山市





おかやま入居支援センター発足1年

運営順調 23人新生活

保証人がいないなどの理由で住居の確保が困難な人を支援する「おかやま入居支援センター」の発足から1年が経過した。同センターが保証人になるなどして入居できた高齢者や障害者は23人に上り、運営は順調だ。今後、支援スタッフ増や賃貸物件の確保に努め、一層の活動充実を目指す。(小畑誠)

「入居前は孤独でつらい生活を送っていた」と言われ困っていた人がほとんど。同センター理事長で不動産会社勤務の井上雅雄は「アパートの老朽化で退去を迫られる人が増えている」と話す。

の心配、障害年金などの財産管理をする社会福祉協議会(社協)との連絡なども担い、各機関が連携した見守り体制をつくるのも阪井さんたちの役割だ。

トラブルなし

同センターは2008年11月末に発足。井上理事長が本人と面会し、家族構成や財産の状況などを確認し、入居希望の申し込みを受け、支援するかどうかを理事会で協議。証書に断られた場合は同センターが保証人になる。財産管理は成年後見制度や社協の事業を活用する。

これまでに岡山、倉敷、津山市などの34人から申し込みがあり、うち23人がアパート、

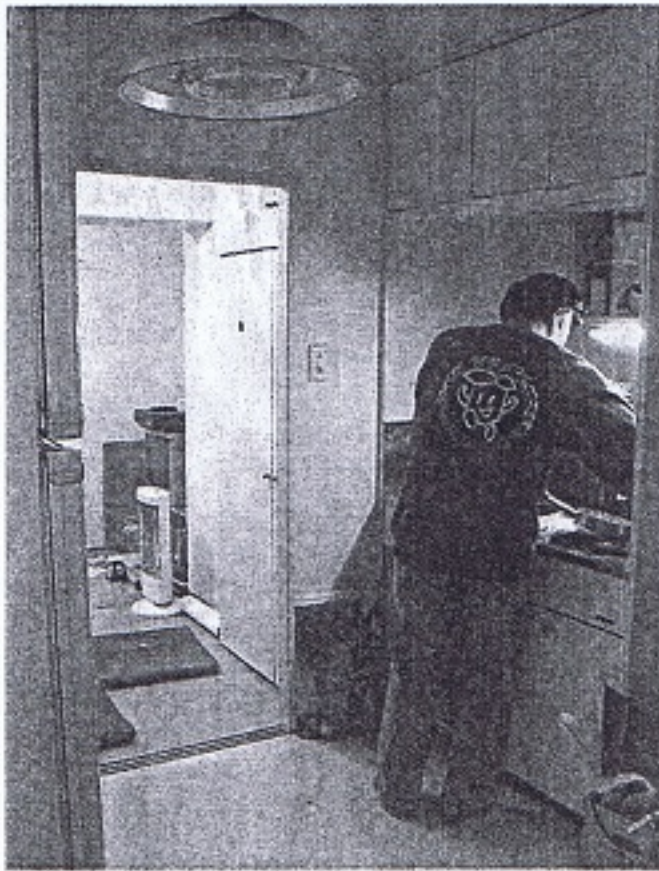
社社長の阪井ひとみさん(50)が話す。身寄りがなく長期入院せざるを得なかった高齢者や精神障害者、元アルコール依存症患者、更生保護施設入所者。自らが管理する賃貸物件の紹介や入居後の見守りを通して全入居者に寄りかかわっている。

就職に意欲

入居できない理由も

住まいの提供に限らず、掃除や食事の支度を手伝う訪問ヘルパー

おかやま入居支援センターのサポートでマンションに入居、新たな生活を始めた40代男性(岡山市北区)



スタッフ、物件充実課題

おかやま入居支援センター 井上理事長は「潜在的な入居希望者は多いため、県北など遠方の担当が増える」とも懸念を述べている。

マンションで新生活を始めた。昨年11月に岡山市北区のマンションに入居した精神障害者の40代男性は「毎日風呂に入れ、気持ちがいい。早く仕事をしたい」と張り切る。家賃滞納や保証人トラブルになったケースもなく、同センター理事長の井上雅雄は「思った以上に順調な滑り出し」と話す。

手回らぬ遠方

一方で課題も見えてきた。理事長が岡山市内在住で、それぞれ仕事を抱えているため、県北など遠方の担当が増えること懸念を述べている。



～2年目に向けて～

新聞に掲載していただいてから、支援を必要とするご本人やご家族の方、医療・福祉関係や行政関係の方から問合せのお電話を数々いただいております。

一般の方からは善意でお布団をご提供いただき、「物件の確保が難しい」「物件が少ない」という記事をご覧になった不動産に携わる方々からは物件のご紹介をいただきました。

ありがとうございました。

また、社会福祉法人あすなる福祉会の「ぱる通信」No.150にも当法人の活動を取り上げていただきましたし、その他県外からもお問合せや取材を受ける機会が増えました。

このように徐々におかやま入居支援センターの名前が広まるにつれ、当法人の活動に興味や関心を示していただける感謝と同時に、責任の重さを感じずにはられません。

活動が活発になった分、問題点も明確になり、その問題を解消するために何をしなければならないのか、ということを考える時期になりました。

今後は関係機関に問題提起をするなど、人力を集結して一つ一つ糸口を見付けられるように頑張っていきたいと思っております。

とは言え、この1年、活動を通じていろいろな方と出会うことができました。

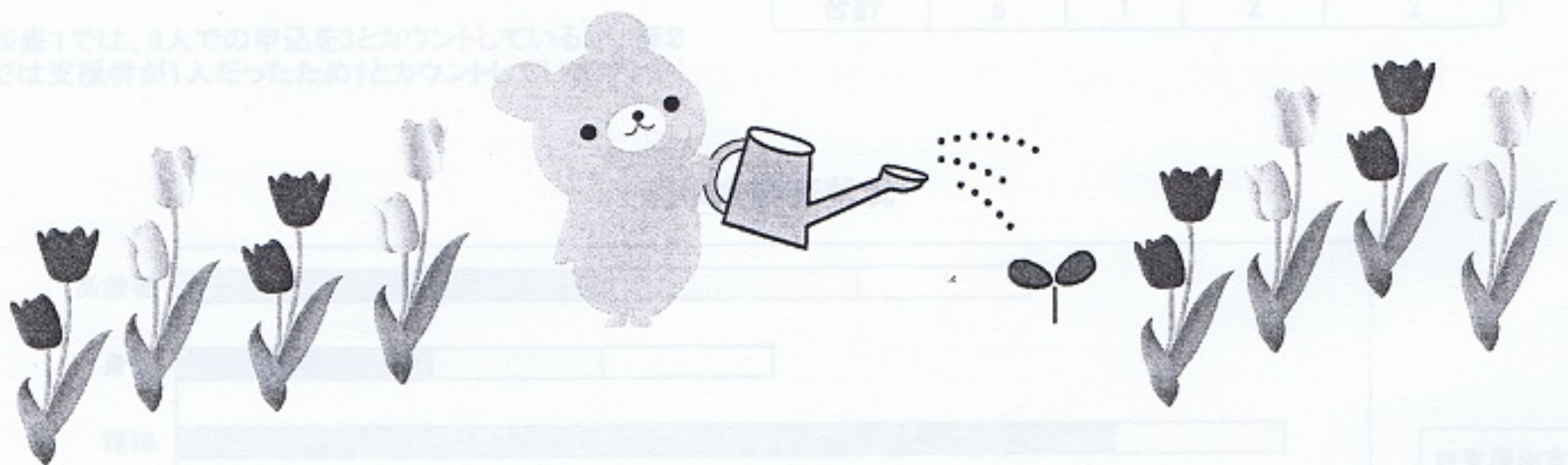
2年目はどのような出会いがあるのでしょうか。

非常に楽しみです。

皆さま、今後とも、おかやま入居支援センターをよろしくお願い致します。

	支援済	保留	不支援
精神	11	2	0
知的	5	1	2
発達	2	1	0
依存症	2	1	0
合計	20	5	2

	お下り	お上り	お下り	お上り
精神	2	0	0	0
知的	1	1	0	0
知的	0	0	1	0
発達	0	0	1	0
依存症	0	0	0	1
合計	3	1	2	1



発行：特定非営利活動法人 おかやま入居支援センター
 〒700-0905 岡山市北区春日町5番6号 岡山市勤労者福祉センター2階
 TEL (086)231-1141 FAX (086)803-3677